

第 1 回社会保険等システム検討委員会
(平成 25 年 4 月 26 日、沖縄 ラグナガーデンホテル明海の間)

出席者(五十音順)

川上紀明(担当理事)、原田繁(委員長)、平泉 裕(副委員長)、伊藤淳二、遠藤健司、川口善辞、武富英二、山形正庸

討議事項

1. 平成 25 年委員会活動報告
2. 目安箱の普及について、パスワードが変わったので確認するようにしてください。
3. 外保連活動報告：昨年度新規術式の 2 件申請済み。
手術試案第 8 版の手術材料の入力が行われた。外保連における手術の実態調査が行われた(詳細は、後日メールで遠藤委員より配信されることになった)。
3. 整形外科新患調査 2012 より新患患者の割合は手術症例：保存症例 = 1:9 で、日本の総人口減少率よりも高齢化率が高いので今後も整形外科専門医数の確保は必要など調査結果が報告された。
4. 手術、保存療法のデータ化について。日整会は、NCD への参加に消極的である。保存と手術症例の全例登録が必要となり、実際に行うとなると莫大な情報量の入力が必要となり医師の手だけでは不可能な状態である。
5. 手術症例のデータ収集には症例登録がどうしても必要である。日整会は NCD 参加には大変消極的であり、日整会の方針に合わせながら脊椎脊髄病学会独自として入力を開始したらどうか。叩き台を作成し、検討する必要がある。そしてまず医療クラークなどのいる入力可能な施設で行い広めてゆくようにする。日整会理事会までに人工関節、JOSKAS などで行われているものを調べ、脊椎脊髄病学会として可能なデータ収集方法を検討する。
6. 来年の脊椎脊髄病学会のシンポジウムへの社会保険関連の演題提出について。来年 4 月の保険改訂に合わせて、また前回の診療改訂後の効果と問題点など具体的なシンポジウム、または講演などのアイデアを今年 7 月までに原田委員長、川上理事にメールで送り、その後メール会議で審議することになった。
7. 社会保険等システム検討委員会の 1 年間の流れを整理する。外保連スケジュールがわかると外保連対策の仕事がしやすいとの依頼が委員からあったので、平泉副委員長が予定を確認し、各委員に PDF で配信することになった。

書記：遠藤健司